

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式 20 個 (選択式 15 個, 記述式 5 個), 論述式 16 題 (1 行×2, 2 行×8, 3 行×6, 計 36 行)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

客観式の解答数は 11 個増加して 20 個となったが, 論述問題の数は昨年度の 18 題から 2 題減少し, 行数も 2 行減少したため, 分量に変化はない。内容的には, 書きにくい論述問題も含まれるが, 頻出のテーマが多く, 全体の難易度昨年度と大きな変化はない。

出題の特徴

さまざまな地図と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが, 本年度は第 1 問で IPCC 作成の地球温暖化にともなう気温と降水量の変化の予想図が出題された。地球温暖化とエネルギー利用との関係, 多民族国家の言語状況, 世界や日本の人口問題, 首都圏の産業構造など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習が必要である。

その他トピックス

第 3 問の女性の労働は, SDGs の 1 つである「ジェンダー平等の実現」と関連するもので, 日本や世界が抱える諸課題に対する意識も求められる。2 年続けて出題された計算問題はなかった。第 1 問は資料が多く, 見開き 4 ページと分量が多かった。第 1 問設問 A (1) の地球温暖化にともなう極地方の人間活動は, 直前講習東大地理テストの第 1 講で北極地方の経済活動として扱った。第 2 問設問 A (3) で問われたインドの言語状況は, 東大本番プレテストで扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第 1 問	選択 記述式 論述	世界の環境と地形	設問 A は, 温暖化の進行にともなう人間活動や自然環境の変化について多面的に問う問題で, (1) は指定語句を陸と海に整理してまとめよう。設問 B (2) (3) は, 比較的書きやすい問題であり, 確実に得点したい。	標準
第 2 問	選択 記述式 論述	世界の言語状況と教育	設問 A (3) は, インドネシアの状況については書きづらいが, インドで学習したことと対比して解答をまとめよう。設問 B (1) を誤ると, (2) (3) の論述に関わるため, 判定は慎重にしよう。	標準
第 3 問	選択 論述	世界と日本における女性の労働	設問 A (2) のイスラエルの女性労働力率の高さは, 周辺のイスラム圏との対立にも注目したい。(3) は発展途上国の社会状況を当てはめることで解答に近づこう。設問 B (3) は, 首都圏における大学や企業の集積と関連させよう。(4) は, 首都圏では専業主婦率が高かった高度経済成長期と, 女性の社会進出が進むことで出産・育児がしづらくなった状況を対比したい。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 客観式問題での得点が合否にかかわるため, 教科書や共通テスト (センター試験) の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
- 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60 字程度の短い論述演習を繰り返しておこう。総字数も多く, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
- 統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
- 日本の変化に関する問題が頻出しており, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」など時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの年代の特徴を理解しておきたい。
- 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
- 地形については, 標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図の読図をもとに, 具体的な地形がイメージできるようにしておきたい。